

松山工高新聞



好奇心を持ち、未来へ

校長 一色俊宏

発行所 高等学校
県立松山工業新聞部
愛媛県松山市真砂町1印刷所 株式会社 松栄印刷所
松山市三番町七丁目9-2
電話 941-3334番

☆ 二面記事 ☆

- ・全国大会に向けて
- ・少林拳法部インタビュー
- ・ファンション甲子園

新学期が始まつて早四か月が経ち、一年の三分の一が過ぎたことになりますが、それまでの学年に応じた基礎固めはできたでしょうか。

高校三年間は就職や進学の選択をしたり、将来を見据えてどのような道に進むか青写真を描いたりする大切な時期です。工業高校という特質を考えれば、本校での教育活動を通して既に明確な夢を持つ人がいるでしょう。しかし、将来の夢が見つからない、なりたい自分の姿が思い浮かばないという人もいると思います。それを見つけるために進学するという選択や社会経験を積みながら考えるという選択も当然あります。大切なのは、将来、社会の中でいかにして自分らしく生きるかということです。

コロナ禍により社会が大きく変容したように、今後も皆さんを取り巻く環境や価値観は変化します。どんな社会になつても順応し、自分らしく生きるためにどうしたらいいのでしょうか。それには、まず自分を知ることです。自分

が何に興味があり、好奇心や探求心を刺激され、夢中になれるものは何か、自信が持てるものは何かなどを見つけることです。それを見つけることが、職業の選択や夢を持つことにつながるでしょう。

昨年、ノーベル物理学賞を受賞した四国中央市出身の真鍋淑郎博士は受賞後のインタビューで「研究は好奇心から始めるべきだ。約六十年に渡つて研究を続けられた原動力は好奇心である」と述べられています。真鍋博士は、気候モデルを試すために二酸化炭素量を二倍にしてみたところ、気温が二、三度上昇するという予想外の結果が出たことに興味を持ち、当時は温暖化が大きな問題になると予想されていました。個人の意見や考え方の違いを認めつつ、互いの価値を高め合い、他者と協働する社会が求められています。

この社会を担う皆さんには、他者を理解することで自分を知り、より良い社会の実現への一翼を担つてほしいと思います。

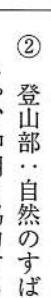
皆さんは今、自分を知るための自分探しの旅の途中にいます。様々な活動を通して、自分を取り巻く環境、物や人に好奇心を持ち、積極的に関わることで自分を知つてください。充実した学校生活を送る中で新たな自分を見つけることも楽しんでください。皆さんのが歩みの先に未来は拓かれています。

好奇心は自分の周囲にある物だけでなく、自分に関わってくれる人へ向けることも大切です。「どんな人かな。どんな人なのか知りたい」という

好奇心や興味・関心は人間関係を築く基となります。知りたいという思いが相手を理解しようとする姿勢を生み、相手の立場に立つて考えることのできる人間へと成長させることができます。相互理解や尊重は、多様性を認めることにつながります。

好奇心や興味・関心は人間関係を築く基となります。知りたいという思いが相手を理解しようとする姿勢を生み、相手の立場に立つて考えることのできる人間へと成長させることができます。相互理解や尊重は、多様性を認めることにつながります。

(質問項目)
①担当教科 誕生日
②高校時代の部活動
③趣味・特技
④松工生に一言

一色俊宏
校長先生高木修平
先生大川和博
先生東雅子
先生黒田哲也
先生住田宏樹
先生野中博文
先生安平仁
先生事務二月九日
先生伊藤博喜
先生永野浩二
先生住田宏樹
先生野中博文
先生安平仁
先生事務四月二十五日
先生伊藤博喜
先生永野浩二
先生住田宏樹

